

秘

一七

昭和十五年十一月一日

委員長 石井顧問官

委員 石塚顧問官 南顧問官

松井顧問官 小幡顧問官

竹越顧問官

外務省官制中改正ノ件外六件審査報告

監 密 記

秘

外務省官制中改正ノ件外六件審査報告

外一

今回御諮詢ノ外務省官制中改正ノ件外六件ニ付本官等審査委員ヲ命ゼラレ客月二十三日及三十一日委員會ヲ開キ當局大臣及關係諸官ノ辯明ヲ聽キ以テ之ガ查覈ヲ遂ゲタリ今各件ノ要旨ヲ摘述スレバ左ノ如シ

第一 外務省官制中改正ノ件

外務省ニ於テ(一)從來南洋方面ニ對スル外交事務ハ其ノ地域ニ從ヒ東亞局、歐亞局及亞米利加局ノ三局ニ於テ之ヲ分掌シ來リタルガ

外務省

支那事變及歐洲戰爭ノ進展ニ伴ヒ帝國ト南洋方面トノ關係ハ軍事上、政治上及經濟上近時頓ニ重要性ヲ加ヘ將來益々多事ナラントスルノ趨勢ニ在リ斯ル事態ニ對處シ今後一層波瀾ノ豫想セラルル國際情勢ニ即應シテ我が南洋政策ノ遂行ニ遺漏ナカラシメンガ爲メニハ外務省從前ノ機構ヲ以テシテハ充分ニ其ノ成績ヲ擧グルコト能ハザルニ由リ新ニ同省ニ南洋局ト稱スル一局ヲ新設シ(第四條)同局ハ「タイ國」「フィリピン」「群島」「印度支那」「ビル

マ、マレー」「北ボルネオ」「東印度諸島」「濠洲」及「ニエ」外二、ジーンランド」其ノ他ノ大洋洲諸島竝ニ南極地方ニ關スル外交事務ヲ掌ルモノトシ(第六條)之ニ伴ヒ東亞局、歐亞局及亞米利加局ノ所掌事務ニ夫々必要ナル整理ヲ施シ(第五條、第六條及第六條)六條(二)新設ノ南洋局ノ職員ニ充ツル爲メ局長ヲ始メ書記官一人、事務官二人及屬六人ヲ増員スルノ外大臣官房ニ於ケル儀典、文書、會計及電信關係ノ事務、東亞局ニ於ケル在支公館及警察關係ノ事務、歐亞局ニ於ケル歐亞諸

國ニ對スル外交事務並ニ通商局ニ於ケル通  
商關係事務増加ノ爲メ書記官一人事務官四  
人理事官七人電信官二人技師一人屬十七  
人電信官補八人及技手四人ヲ増スノ必要ア  
ルモ他方經費節減ノ爲メ事務官三人及屬七  
人ヲ減ゼントスルニ由リ結局本案ヲ以テ局  
長一人書記官二人事務官三人理事官七人電  
信官二人技師一人屬十六人電信官補八人及  
技手四人ヲ増員セントス(第三條、第四條、第十  
二條、第十四條、第十五條、第十六條、第十七條、  
第十八條、第十九條)

第二 在「アルゼンティン」國帝國公使館ヲ大使

外三

館ニ昇格ノ件

政府當局ノ説明ニ依レバ帝國ハ明治三十四  
年「アルゼンティン」國トノ間ニ修好通商航海  
條約ヲ締結シ翌三十五年以來相互ニ使臣ヲ  
交換シテ今日ニ到レルガ同國ハ其ノ國力ニ  
於テ中南米ニ於ケル「スペイン」系諸國ノ指導  
的地位ヲ占ムル關係上歐米各國ハ競ウテ之  
ニ有カナル外交機關ヲ設置シ現在大使館ヲ  
設置スルモノ英米獨伊佛等ノ十餘箇國公使

館ヲ設置スルモノ三十箇國ニ達スルノ情況ニ在リ近時中南米ニ對スル北米合衆國ノ進出顯著ナルモノアルモ「アルゼンティン」國ニ於テハ其ノ國力比較的充實シ經濟的ニ米國ト競争的立場ニ在ルニ由リ之ニ反撥對抗スルノ氣運尠カラズ而シテ日「ア」兩國間ノ關係ハ今次ノ歐洲戰爭ノ勃發以來經濟關係其ノ他ノ點ヨリシテ漸ク接近ノ趨勢ニ在ルガ故ニ我國ニ於テモ同國ニ於ケル外交機關ヲ擴充シ同國ヲ通ジ中南米ニ於ケル我が地步ヲ

外四

確固タラシムルコト緊要ナリ又同國人ハ一般ニ感情的ニシテ儀禮形式ヲ尊ビ且自國ノ體面ヲ重シズルノ念頗ル強ク從テ外交使節ノ大使タルト公使タルトハ國交改善上影響スル所ナシトセズ而シテ同國ニ於テハ我國ヨリノ大使派遣方ヲ希望シ既ニ在本邦公使館ヲ大使館ニ昇格スルニ付テ諸般ノ國內手續ヲ了セルノ實情ニ在リ次ニ日「ア」兩國ノ貿易關係ヲ觀ルニ近年漸増ノ傾向ヲ辿リ昭和十二年ニ於テハ輸出入合計八千餘萬圓ニ達

シ中南米中第一位ヲ占メ其ノ後一時變調ヲ  
來セルモ最近兩國間ニ貿易增進方ニ關シ諒  
解成立セルヲ以テ我國貿易上ノ必要ニ照シ  
今後比較的有望ナル中南米地域ニ於ケル市  
場ノ開拓ニ資スル爲メ「ア」國ニ對スル貿易ハ  
一層之ヲ助長スルノ要アリ以上ノ諸理由ニ  
因リ帝國政府ニ於テハ現ニ「ア」國ニ存置スル  
公使館ヲ大使館ニ昇格スルノ必要ヲ認メ茲  
ニ本件ノ措置ヲ執ラントスルナリ

### 第三 濠洲聯邦ニ帝國公使館設置ノ件

政府當局ノ説明ニ依レバ濠洲聯邦ハ英帝國  
ノ重要ナル自治領ニシテ曩ニ英帝國會議ニ  
於テ其ノ獨立ノ外交權認メラレ更ニ英本國  
ト對等ノ關係ニ在ルコト確認セラレ其ノ國  
際的地位ハ著シク高マリタルが殊ニ今次歐  
洲戰爭勃發以來其ノ英帝國內ニ於ケル發言  
權ハ益々増大シ英本國ハ最近ノ極東諸問題  
ニ付常ニ濠洲聯邦政府ノ意向ヲ徵スルノ現  
況ニ在リ而シテ帝國及濠洲聯邦ハ由來俱ニ  
太平洋ニ位シ相互ニ緊密ナル關係ヲ維持增

進スベキ地理的環境ニ在ルニ拘ラズ同聯邦  
が從來専ラ英本國ニ依存シ白濠主義ヲ以テ  
國策ト爲シ他國ニ對シテハ概シテ排他的政  
策ヲ持續シ來リタルヲ以テ國交必ズシモ敦  
厚ナリト謂フヲ得ズ然ルニ濠洲聯邦ノ我が  
對外政策及貿易上ニ於ケル地位ハ近年益々  
重要性ヲ加フルニ至リタルニ因リ日濠兩者  
ノ關係ヲ打開シ其ノ親善ヲ圖リ貿易ノ伸張  
ヲ促サンガ爲メ相互ニ公使ヲ交換シ直接外  
交交渉ノ途ヲ開カンコト帝國政府ノ夙ニ希

外六

望ミ來リタル所ナルガ未ダ其ノ機ヲ得ルニ  
至ラザリシニ最近極東及歐洲情勢ノ急變ハ  
濠洲聯邦ヲシテ從來ノ政策ニ不安ヲ感ゼシ  
ムルニ至リ乃チ同聯邦ハ一方米國トノ合作  
ヲ試ムルト共ニ他方帝國トノ接近ヲ圖リ遂  
ニ本年八月帝國政府ニ對シ公使派遣方ノ申  
入ヲ爲シ來レリ仍テ我國ニ於テモ之ヲ受諾  
スルト共ニ茲ニ本件ヲ以テ濠洲聯邦ニ帝國  
公使館ヲ設置スルノ措置ヲ執ラントスルナリ  
第四 在ラトヴィア帝國公使館廢止ノ件

第五 在「エストニア」及「リシアニア」帝國公使館  
廢止ノ件

「エストニア」「エストニア」及「リシアニア」ノ三國  
ハ孰レモ曩ニ歐洲戰爭ニ際シ成立シタル新  
興國ナルガ帝國政府ハ昭和三年十月駐獨帝  
國大使ヲシテ「エストニア」國公使ヲ兼任セシ  
メ次デ翌四年十月同國ニ公使館ヲ設置シ更  
ニ昭和十二年二月在同國公使ヲシテ他ノ二  
國駐劄帝國公使ヲ兼任セシメ以テ今日ニ到  
レリ然ルニ今次歐洲戰爭ノ勃發ト共ニソヴ

外七

「エストニア」聯邦ハ右三國ニ對シ重壓ヲ加ヘ其ノ  
援助ノ下ニ成立セル三國新議會ハ夫々自國  
ノ「聯邦」編入ヲ議決シ次デ「聯邦」最高會議  
ハ本年八月三日「リシアニア」ノ併合ヲ同五日  
「エストニア」ノ併合ヲ更ニ翌六日「エストニア」  
ノ併合ヲ夫々可決セリ其ノ結果「聯邦」政府  
ハ帝國政府ヲ始メ諸外國政府ニ對シ在右三  
國外交機關及領事機關ノ撤退ヲ要請シ來リ  
諸外國政府ハ右撤退ノ措置ヲ執ルニ至レル  
ヲ以テ帝國政府モ亦之ニ倣ヒ「聯邦」三國



併合ヲ事實トシテ認メ從テ在「ラトヴィア」エ  
ストニア及「リスアニア」各國帝國公使館ハ之  
ヲ存置スルノ理由ナキニ至リタルヲ以テ茲  
ニ本件ヲ以テ此等ノ公館ヲ廢止スルノ措置  
ヲ執ラントスルナリ

### 第六 拓務省官制中改正ノ件

第七 昭和十四年勅令第五百六號臨時拓務省  
ニ拓殖調査部ヲ設置スルノ件廢止ノ件  
政府當局ノ説明ニ依レバ拓務省ニ於ケル滿  
洲移植民ニ關スル事務ハ從來拓務局ニ於テ

外八

南米及南洋ニ對スル移植民及拓殖事業ニ關  
スル事務ト併セ處理シ來リタルモ滿洲開拓  
事業ノ飛躍的進展ニ伴ヒ關係事務頓ニ増加  
シ他方近時遽ニ重要性ヲ加ヘ來レル南方拓  
殖政策遂行ノ要愈々切ナルモノアリテ到底  
現在ノ機構ヲ以テシテハ之ガ完璧ヲ期スル  
ヲ得ザルニ到レリ仍テ今般拓務局管掌事務  
中主トシテ滿洲移植民關係ノ事務ヲ專管セ  
シムル爲メ拓北局ナル一局ヲ新設シ(第六條  
ニ條ノ同時ニ拓務局ハ之ヲ拓南局ト改メ(第七條

南方拓殖政策ノ遂行ニ關シ關係各廳トノ連  
繫ヲ密ニスル爲メ從前ノ拓務局參與ハ之ヲ  
拓南局參與ト改メ(第七條)更ニ管理局及殖産  
局所管事務ノ一部ヲ變更シ(第五條及第六條)新設ノ  
拓北局ノ職員ニ充ツル爲メ局長ノ外書記官  
二人事務官一人屬十一人及技手六人拓南局  
ノ機構ノ整備充實ヲ圖ル爲メ事務官一人技  
師二人屬五人及技手三人會計事務ノ増加ノ  
爲メ屬二人ヲ夫々増員スルモ他面經費節減  
ノ爲メ屬二人技手三人及通譯生二人ヲ減員

外九

スルニ由リ差引キ局長一人書記官事務官技  
師各二人屬十六人及技手六人ヲ増員セント  
ス(第二條、第三條、第八條乃至第十條)而シテ從前臨時  
ニ同省ニ設置セラレタル拓殖調査部ニ於テ  
掌理シタル移植民及海外拓殖事業ノ指導獎  
勵ニ關スル事項ノ調査及企畫ニ關スル事務  
ハ上記ノ改正ニ伴ヒ拓北拓南兩局ヲシテ併  
セ掌理セシムルコトト爲リタルヲ以テ部局  
増設抑制ノ趣旨ヲモ考慮シ今回同部ハ之ヲ  
廢止セントスルモノナリ

按ズルニ以上各件ノ内第一第六及第七ノ三件ハ外務省及拓務省ニ於テ主トシテ時局ノ必要ニ基キ所管事務ノ増加ニ應ジ竝ニ其ノ改善ヲ圖ル爲ノ部局ヲ新設又ハ整理シ及職員ヲ増減セントスルモノ、爾餘ノ四件ハ現下ノ國際情勢ニ誓ヘ帝國外交ノ在外機構ヲ強化整備シテ處務ノ便益ヲ圖リ以テ國策遂行ニ資スル爲ノ帝國公館ノ昇格新設ヲ爲シ又ハ當該國ノ消滅ニ因リ不要ニ歸シタル帝國公館ヲ廢止セントスルモノニシテ孰レモ已ムヲ得ザルモノト認ム

外一。

仍テ審査委員會ニ於テハ本案ノ七件ハ此ノ儘之ヲ可決セラレ然ルベキ旨全會一致ヲ以テ議決シタリ

右審査ノ結果ヲ報告ス

昭和十五年十一月一日

審査委員長

樞密顧問官子爵石井菊次郎

審査委員

樞密顧問官

有馬

良橘

(公務関係者  
決議ニ與ラズ)

樞密顧問官

石塚

英藏

樞密顧問官 南 弘

樞密顧問官男爵松井慶四郎

樞密顧問官 小幡 酉吉

樞密顧問官 竹越與三郎

樞密院議長原嘉道殿

明治十五年十一月

日立案

主筆

書記官 高辻

書記官長



書記官 高辻

海軍省官制中改正ノ件審査報告

(別紙通)